海・街（まち）・山と　人が融け合う　元気なまち・高松を目指して

今日、地方自治体を取り巻く環境は、少子高齢化による急激な人口構造の変化や情報化の進展に伴い、様々な行財政課題が山積する中、長引く景気の低迷による税収の落ち込みなど、極めて厳しい財政事情を抱えており、国の「三位一体改革」とも相まって、非常に困難な状況となっています。

一方、本格的な分権の時代を迎え、これまでのような国主導ではなく、自己決定・自己責任の理念に基づき、自分たちの地域のことは自分たちで考え、判断し、実行する、という「自立したまちづくり」が、今、まさに求められています。

このような、国・地方を問わず押し寄せる大きな改革の流れの中で、高松市にとって、今後の行財政運営の取組みが、将来の高松市の「かたち」を決定し、都市間競争での優位性を左右するといっても過言でなく、健全で持続可能な行財政運営を推進する中で、これまで蓄積された四国を代表する高次都市機能や都市資源の活用により、地域の活性化を図るとともに、新しい時代に適合した都市づくりを進めることが、これまでにも増して重要な都市課題となっています。

このような状況の中、高松市では、平成15年6月1日に、圏域で初となる合併協議会を塩江町との間で設置し、以来、近隣6町との間で、順次、合併協議会を設置し、協議を進めてきたところですが、このたび、本年9月26日には塩江町と、また来年1月10日には、香川町・国分寺町・香南町・庵治町の4町と合併し、合併後は、北は瀬戸内海から南は徳島県境までを市域とする、人口40万人を擁する新しい高松市が誕生することとなりました。

また、牟礼町につきましては、本年3月の牟礼町議会で、高松市との合併関係議案が否決されましたが、その後の町長選挙で示された、高松市との合併を望む住民の意思を踏まえ、他町と同じ、来年1月10日の合併に向けて協議を再開したところです。

このように、高松市を取り巻く合併の動向は、なお流動的な要素はありますが、高松市としては、今後、各地域の特性を生かしたまちづくりを進める中で、各合併協議会が作成した建設計画に掲げる、将来構想における望ましい都市像『21世紀の四国の州都を展望した風格ある環瀬戸内海圏の中枢・中核拠点都市～グレーター高松の創造～海（まち）・街・山と　人が融け合う　元気なまち・高松』を目指し、市民の皆様はもとより、合併関係町の住民にとっても、「合併して良かった」と思えるよう、全力を傾注してまいりますので、引き続き、市民の皆様の御理解と御協力をお願い申しあげます。

平成17年8月　高松市長　増田 昌三

contents

○いま、なぜ合併なの？ …… 3
○市民のしあわせを願って、進められた合併協議！ …… 4
○新しい高松市のすがた …… 5
○知っておきたい、町のプロフィール …… 6
○自然・伝統・賑わいが融け合うスポット！ …… 8
○各町自慢の特産品 …… 10
○合併後の高松市のNo.1&Only1 …… 11
○よりよい市民サービスのために！ …… 12
○まちづくりプラン（市の全体像） …… 14
○まちづくりプラン（各町の地域づくり） …… 16
○合併による行財政面での効果 …… 18
○住民からのメッセージ …… 19
○牟礼町との合併協議はどうなっているの？ …… 22
○1市5町スタンプラリー …… 23